トピックス

開会挨拶（要旨）

核融合エネルギーフォーラム議長 佐藤文隆

ITERの政府間交渉では難航しましたが、建設地が決まった後、ITERやBAにおいて日本が主導的役割を担うことになり順調に進んでおります。池田要ITER機構長には、「要」石となって頑張ってもらいたいと願っています。核融合エネルギーフォーラムはITERを支援する組織ですが、同時にグローバルな環境問題の中で核融合を位置付けることが問われています。このような意味で、今年度から従来の「核融合フォーラム」を「核融合エネルギーフォーラム」と改め、組織を整備しつつあるところです。フォーラムには2つの大きな役割があり、一つは若い人材の育成、もう一つはエネルギー・環境問題にどう寄与するかということです。今回の第2回全体会合は「ITER機構発足記念シンポジウム」と題して開催しましたが、今日はこれらの役割を果たすことを目指す新たな出発点となります。理論物理学出身ということもあって、運営会議で度々耳にして違和感を覚えた言葉があります。「我が国のエネルギー」というのがその言葉なのですが、本当なら「我が国」という言葉を取りたいところです。何度か意見を申し上げたのですが「我が国」を外すことには抵抗が大きいようです。資源がないが故に「エネルギー」と「我が国」を切り離せないのかな、と理解するようになりました。しかし、エネルギーは決して「我が国」のものではなく、その開発は環境問題と合わせて世界に貢献し科学技術先進国として日本の地位を発展させていくものです。

核融合でそれを具体的に発展させるのがITER機構ということになります。このような視点に立ち、核融合エネルギーフォーラムがますます重要な役割を果たしていくことを期待します。